

最近の県内景気動向

平成14年4月26日
日本銀行水戸事務所

～依然低迷も、景況感の下げ止まりか…?～

最近の管内経済動向をみると、公共投資や設備投資等が低調を続けているほか、個人消費も盛上りが欠く展開となっており、依然低迷状態にあるが、ここへきて製造業の受注・生産に改善の動きもみられ、昨年来悪化を続けてきた景況感にも下げ止まりの兆しが窺われている。

【消費費】

◎3月の大型小売店の売上

狂牛病問題の影響が尾を引く食料品をはじめ、雑貨、家庭用品等も落込みを続けるなど、全体として低調裡に推移しているが、店舗改装やブランド変更が奏功したり、気温が高目に推移したこともあって、春物衣料が高い伸びとなった（前年比：2月▲7.0%→3月▲1.3%）。

◎3月の乗用車新車登録台数

一部新型車が好売行きを示したものの、総じてみれば普通車（前年比▲14.3%）、小型車（同▲6.4%）ともに、大きな落込みとなった（同▲9.4%）。

◎3月の家電販売

テレビ（サッカーW杯関連）、パソコン（新モデル値上げ前の駆け込み需要）、エアコン（気温上昇）等を中心に、比較的底固い動きを続けている。

◎3月の旅行取扱状況

海外旅行は米国土やハワイ等への旅行が引き続き前年を下回っている反面、韓国、中国等の旅行が増え、ほぼ前年並みとなっている。一方、国内は温泉地や沖縄、北海道方面を中心に引き続き前年を上回っている。

【公共・住宅投資】

◎3月の公共工事請負額

公団・事業団（前年比▲61.4%）、県（同▲22.6%）が減少したものの、国（同+89.2%）による年度末大型工事の発注がみられたことから、全体ではほぼ前年並みとなった（同+0.4%）。なお、年度ベースでは、県（前年度比▲13.4%）や地方公社（同▲77.4%）を中心に、前年度を1割下方回った（同▲8.0%）。

◎2月の新設住宅着工戸数

このところ大幅増加が続いていた貸家（前年比▲5.8%）がマイナスに転じたほか、主力の持家（同▲10.6%）も低迷が続いていることから、全体では前年を1割下方回った（同▲9.0%）。

◎設備投資

14年度の設備投資（有形固定資産ベース）計画をみると、製造業（前年度比▲27.6%）では、設備過剰感や先行き不透明感が依然強いことから、慎重な姿勢を保っている。一方、非製造業（同+14.3%）では、不動産、卸売等減額となっている先が多いが、大店立地法施行後模様の状態にあった小売で出店再開の動きがみられる。

【生産動向】

前月減少した後、一般機械、化学等を中心に大幅な増加となった（生産指数前月比：+5.8%<原指数前年比▲1.3%>、出荷指数前月比：+16.5%<同+1.6%>）。この間、在庫は昨秋以降ほぼ横這いで推移している（在庫指数前月比：▲0.7%<同▲10.0%>）。ごく最近の動きとしては、なお低操業を続ける先が多いが、半導体、電子部品など情報関連企業等では、受注の持直しや在庫調整の進展から減産を緩和する動きがみられる。

【企業倒産】

3月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数（16件）がほぼ前年（15件）並みであったものの、負債総額（1,095億円）は大型倒産が多発（7件）したことから、前年（45億円）を大幅に上回った。

茨城県主要経済指標

(前年比、%)

	13年度	14/1	14/2	14/3
大型小売店売上高	▲3.9	▲5.4	▲7.0	▲1.3
乗用車新車登録台数	▲3.9	▲3.9	▲10.7	▲9.4
[除く軽]	▲4.6	▲2.6	▲7.5	▲9.0
[含む軽]	▲4.6	▲2.6	▲7.5	▲9.0
公共工事請負金額	▲8.0	▲8.3	▲73.3	▲0.4
新設住宅着工戸数	n.a.	8.8	▲9.0	n.a.
[持家]	n.a.	▲5.9	▲10.6	n.a.
産業用電力消費量	▲4.1	▲5.9	▲5.8	▲5.5
[大口電力]	▲4.2	▲5.9	▲5.4	▲5.4
鉱工業指数 [生産]	-	-	94.1	99.6
鉱工業指数 [出荷]	-	-	85.1	99.1
鉱工業指数 [在庫]	-	-	84.9	84.3
有効求人倍率 (倍)	0.63	0.51	0.50	0.52
倒産件数 (件)	235	10	19	16